

## 令和2年度 第2回 北広島市特別天然記念物野幌原始林調査委員会議事録

日時 : 令和2年7月29日(水) 14:00~16:00

場所 : 広葉交流センター 研修室(2階)

### 出席者

調査委員会委員長		露崎史朗	学識経験者
調査委員会委員		矢部和夫	学識経験者
		森下徹	北広島市文化財保護審議委員
		首藤光太郎	学識経験者
調査委員会 オブザーバー		山田晴康	北海道森林管理局石狩森林管理署 業務グループ 主任森林整備官
		赤井文人	北海道教育庁生涯学習推進局 文化財・博物館課 文化財保護係 専門主任
事務局(運営)		伊木千絵美	北広島市教育委員会 教育部エコミュージアムセンター知新の駅 主任
		丸毛直樹	北広島市教育委員会 教育部エコミュージアムセンター知新の駅 センター長
		畠 誠	北広島市教育委員会 教育部エコミュージアムセンター知新の駅 学芸員(主査)
		永坂隆之	北広島市教育委員会 教育部エコミュージアムセンター知新の駅 主査
事務局運営支援		佐藤幸樹	北電総合設計株式会社 環境部 次長
		一北民郎	北電総合設計株式会社 環境部 環境技術室 主任技師
		齋藤綾佑	北電総合設計株式会社 環境部 環境技術室 副長

愛甲哲也副委員長(学識経験者) : 欠席

### 【会議次第】

#### 1. 開会

進行 北広島市教育委員会 教育部エコミュージアムセンター知新の駅 センター長 丸毛直樹

#### 2. 委員長あいさつ

露崎史朗委員長

#### 3. 議事

##### (1) 報告

○第1回調査委員会からの意見

事務局 : 内容と課題説明

〔課題〕・天然トドマツの減少と次世代育成

- ・野幌原始林の目指す姿
- ・将来を見据えたゾーニングの必要性
- ・市民は野幌原始林をどのようにとらえているか

##### (2) 議案

1) 今後3年間の調査の方向性と項目について

#### 〔調査の方向性〕

- ・野幌原始林の姿として針広混交林帯の極相を想定し、50年先の樹林を考えて調査を進める。事務局の提示した内容に加え、近年、森林保全を検討する上で懸念されるシカの食害についても既存資料収集に加える。
- ・野幌原始林及びその付近はトドマツと落葉広葉樹が混在した針広混交林であったが、これまで台風等の被害を受けトドマツが減少した経緯があることから、それを元に戻すことができるか否かを主眼に調査項目を検討する。

#### 〔ドローン撮影〕

- ・トドマツ減少の要因として、天然更新を阻害する要因の1つにチシマザサ（以下、ササ）が挙げられるため、ササの分布を把握することも必要である。
- ・植生分布図（詳細版植生図）、トドマツ分布図、チシマザサ分布図の作成を目的としてドローン撮影を実施する。
- ・撮影精度は樹木1本、1本を把握でき、林床が映った場合はササの分布範囲が把握できる程度とする。撮影は2回行うことを目標とし、時期は紅葉期(10月)、落葉後の非積雪期(10月下旬から11月)とし、原始林全体およびトドマツ分布と林床植物が把握できる時期とする。ただし、撮影回数が限られる場合は、トドマツ分布、ササ分布を優先し、落葉後の非積雪期に撮影することとする。
- ・ドローン撮影後の現地調査は必要であり、常緑のハイイヌガヤとイチイなどの見間違いを確認する上でも冬季に踏査することも検討した方がよい。

#### 〔森林構造調査〕

- ・令和3年度に森林構造調査を計画しているが、この地域はササの密度が高く、冬季以外は歩ける場所が限られるので、全体を把握することは難しい。そのため、令和2年度の冬季に概査を実施し、その上で令和3年度にポイントを絞って調査を行う。
- ・森林構造調査では、既存・追加指定地で一定範囲の毎木調査を実施することで進める。

#### 〔資料収集〕

- ・既存資料収集調査においては、植物、植生情報を調べるにあたり、野幌原始林の攪乱履歴(山火事、伐採、台風による風倒)を可能な限り確認する。

#### 〔アンケート〕

- ・天然記念物は基本的に立ち入りが制限されるため、利用意向アンケートを実施する必要はないと考えられる。
- ・現状では北広島市民でも野幌森林公園と野幌原始林の区別がついていないという方が多いと感じる場合があり、情報収集が必要ではないかと考え、項目を設定している。
- ・アンケート実施計画は令和4年度に計画されているが、最後の年度に実施した場合、その回答に重要な検討項目が見つかった場合、フィードバックできないと思われるので、令和3年度のほうがよいと思われる。
- ・アンケート調査は目的が明確でない限り、何もわからない回答しか得られない場合が多い。また、アンケートは条件により回答が変化してしまうことから、回答者全員が正直に答えてもらえるような工夫が必要となる。
- ・そのため、愛甲副委員長の意見(書面)も踏まえアンケートの実施に関しては保留とし、やかましの森関係者への聞き取りのみとする。ただし、聞き取り内容は目的を明確にするように再考する。

#### 〔動物調査〕

- ・動物調査についてクマゲラを計画している理由は、クマゲラが天然記念物であり、野幌原始林を象徴していることによる。隣接事業の環境調査でもクマゲラ等の重要な動物の調査が実施されているので、既存資料収集結果によっては調査不要となることもありうる。
- ・クマゲラについても植物調査と同様に、利用しているねぐら木や営巣木を把握するため、冬季に概査しておいた方がよい。今年度の隣接事業の環境調査結果を確認し、足りない場合に急に調査に入るということができないので、令和2年度に設定しておいた方がよい。
- ・周辺部のシカの増加については、おそらく15年前くらいから目立つようになったと思われる。国道274号、大曲線でシカのロードキルがあり、このような情報も蓄積していると思われるので増加の傾向はわかるとと思われる。加えて、大学等の研究機関ではシカの動向を調査しており、いろいろ情報があると思うので既存資料収集でよいと考えている。

#### 〔植物相調査〕

- ・植物相調査(フロラ調査)は目的によって精度が異なり、完璧なフロラリストはつくれないものである。単に調査を実施しただけ、という結果にならないように林相毎に比較するなど検討する必要がある(追加指定地内は造林地、裸地等の林相での比較、既存指定地と追加指定地の比較)。
- ・植物相調査(フロラ調査)のはっきりした目的がないとあまり意味がない、目的が明確になり、既存指定地を調査範囲に入れる必要があれば入れた方がよい。
- ・植物相調査は夏に1回しか実施されない場合も多く、フロラを把握したとは言いにくい場合もある。そのため、特に春植物には重要種(レッドリスト掲載種など)が多く含まれるので春季、夏季、秋季くらいの3回は調べないと植物相をしっかりと把握できないと思われる。
- ・フロラリストの比較については、既存資料収集調査の情報を活用することも検討した方がよい。

#### 2) 令和2年度調査項目について

- ・既存資料集調査は明治大正期、野幌以外でも関係しそうなことは加えて、収集整理する。
- ・収集した文献は 野幌だけ、野幌とその周辺、野幌の隣接地、などとグレード分けした方がよい。
- ・アンケート調査は保留とし、熟考する。
- ・ドローン撮影はできる限り実施する。トドマツ分布とササ分布を優先し、落葉期の積雪がない時期に撮影することとする(10月下旬から11月)。
- ・聞き取り調査は目的を明確にした上で、やかましの森関係者を対象として実施する。
- ・クマゲラ調査は冬季に利用しているねぐら木や営巣木把握などのための概査をする。

#### 4. その他

##### (1) その他

- ・北海道石狩国野幌森林の植物学的研究の著者である館脇操氏の私物の調査データ(フィールドノート、看板写真ほか)などを北海道大学総合博物館で整理しているので、それらを活用することも可能である。

##### (2) 次回開催について

- ・令和3年2月を予定(秋冬に実施した1年目調査結果報告ほか)